

令和6年能登半島地震で被災した保育園等において 楽しさを届ける活動

団体名●連ゼミナール及び有志／代表者名●連 桃季恵（人間科学部こども学科・講師）

はじめに(背景・目的・目標)

令和6年1月1日に発生した地震により、能登は大きな被害を受け、保育施設の運営においても大きな工夫が必要とされている。このような状況の中で、将来保育士を目指す学生と保育士養成に携わる教員は何ができるのだろうか。今後の復旧・復興において、“音楽すること”を専門とするゼミだからこそできることを模索し、子どもや保育者に“楽しい”を届けることを目的とした。

活動内容

2024年度は輪島市門前町にある輪島市立松風台保育所において、計3回の活動を実施した。

【第1回目：7月30日(火)ゼミ生6名、教員1名】

人形劇「ブレーメンの音楽隊」と歌「ぼよん行進曲」を披露し、その後子どもたちと学生が遊ぶ時間を設けた。ブレーメンの音楽隊で用いた歌では「どんなにつらいことがあっても、大丈夫、僕らには歌がある」(作詞／藤本ともひこ、作曲／中川ひろたか)、ぼよん行進曲では「どんな大変なことが起きたって、君の足のその下には ととてもとても丈夫な“ばね”がついてるんだぜ、知ってた?」(作詞／中西圭三・田角有里、作曲／中西圭三)といった歌詞がついている。当日は、子どもや保育者への思いを人形や歌に込めて披露した。劇の開始時、子どもたちから緊張が見て取れたが、徐々に子どもの反応が増え、最後は躍動的なジャンプが見られた。



写真1 人形劇「ブレーメンの音楽隊」の場面



写真2 人形劇後の子どもとの触れ合い場面

【第2回目：11月7日(木)連ゼミ6名、教員1名】

前回の訪問では、子ども達が学生たちに慣れておらず緊張していたのではないかという反省のもと、「すぐに劇を始めるのではなく、まず子どもと遊んでから劇を披露するのがいいのではないか」といった意見が学生から出された。そのため、まずは子どもと遊んだ後、操り人形を用いた音楽劇を披露した。音楽劇は学生自身が台本をつくったオリジナルであり、“きらきらぼし”、“おもちゃのチャチャチャ”、“トルコ行進曲”に加えて、前回子どもたちと歌って踊った“ぼよん行進曲”を挿入した。劇の前に子どもと遊んだからか、劇が始まると同時に子どもは各々の思いを言葉などで表現した。操り人形に心を寄せる言葉が聞かれたり、自然と歌ったり、思い切り動いたりする子どもがいるなど、音楽劇などを通して子どもの主体的な様子が見られた。



写真3 ぼよん行進曲でのジャンプ場面

【第3回目：1月29日(水)連ゼミ6名及び学生有志2名、教員1名】

3回目は、歌を用いた影絵「はらぺこあおむし(絵本：エリック・カール作)」と継続的に挿入している「ぼよん行進曲」を行った。影絵を披露すると、蝶がピアノの音とともに飛び立つ影絵をみて、「わあ」「きれい」などといった言葉が聞かれ、影絵により子どもの感性が刺激されている様子うかがえた。影絵の後ろでは、学生が重なり合いながらも演じており、子どもに見えてはいないが学生自身が体を揺らしながら歌っていた。学生の感想に、「保育士さんの姿が子どもが見て、笑顔で踊っている子もいた」ことが記載され、保育士の姿が子どもに影響するように、学生自身が歌や影絵を楽しむことで、その楽しさが子どもに届いたのではないかとと思われる。



写真4 影絵「はらぺこあおむし」の舞台裏

成果、結果の考察

<継続的に毎回違う題材と毎回同じ題材を組み合わせることの効果>

本活動は毎回違う題材(人形劇、影絵など)と同じ題材(ぼよん行進曲)を活動に取り入れた。毎回違う活動を行うことにより、新たな感覚が刺激され、子どもの素直な反応が見られた。一方、同じ題材を毎回行うことにより、「あれだよね!」と予想し、前回以上に楽しむ姿があったり、子どものペースで歌や動きを習得したりすることにつながった。また全3回の活動において、およそ同じ学生が訪問したため、子どもの緊張感が薄れ、子どもが思い思いに言葉や動きで表現する姿が見られ、継続的に訪問する効果がうかがえた。

<子どもの反応による学生の対応力の向上や協力体制の構築>

学生ははじめ、子どもの姿を予想することができず、不安に思っているようであった。しかし回数を重ねることで、子どもの様子が想像できるようになり、子どもの楽しいをより一層考えて話し合うようになった。また、子どもの反応が増えて臨機応変に対応が求められる中で、学生同士が互いを思いやり、子どもの反応に対応できる協力体制がつくられた。

<子どもと保育者、そして学生との心のやり取り>

学生の感想にもあったように、保育者の笑い声が、子どもの表情を和らげ、安心して自分を表現できる場がつくられた。反対に子どもの笑顔が、保育者や学生の笑顔にもつながったといえる。

今後の課題、展望

今年度の活動は学生とのスケジュール調整の関係で、3回にとどまった。今後、継続的に訪問することで、子どもや保育者との関係を築き、その経験をもとに次の活動へとつなげていきたい。

謝辞

輪島市立松風台保育所の所長並びに職員の皆さま、そして子どもたちに、心から感謝申し上げますとともに、皆様の健康をお祈り申し上げます。また、本活動で使用した人形や影絵はこれまでのゼミ生が製作したものであり、この場をお借りして感謝申し上げます。今後も大切に使用させていただきます。



写真5 保育所前における集合場面